

第2回 学校運営協議会 記録

日 時 令和7年10月2日（木） 午後0時45分～2時45分

場 所 浜松湖北高等学校佐久間分校応接室

出席者 委員（敬称略） 坪井俊介、高橋 恵子

学校 新井淳一校長、橋本徳一副校長、長谷川竜一教頭

【開会】

1 中高交流会見学

2 議事 会議成立 委員2人過半数出席

ア 佐久間分校の近況報告

〔事務局説明〕 佐久間分校の近況について

《委員質問・意見》

- ・VR体験はどんな体験か？

（事務局）2年生「地域学」の一環で行った。地域をバーチャル化して学ぶことを生徒が想定したのでその方法としてVRを扱う企業に依頼した。

- ・駅アートはとても良い企画。

- ・類型選択について説明してほしい。

（事務局）進路によって2年生から3つの類型に別れる。地域総合類型では、教科「地域」で地域について学んだり、地域のために様々な事業を展開したりしている。

テーマはその年によって変わる。本年度は「古民家」利用の地域行事（お茶会）、鹿の糞の着火剤、ブラックバス駆除プロジェクトなどを展開している。

- ・3年生の異動について気になった。

- ・下宿の2名は、どのような経緯で借りることになったか。

（事務局）運営協議会の人脈で、民間企業の寮だったところを借りることになった。

- ・大学進学には「地域との関わり」の実績が武器になる。横断的に「地域」を学ぶことで進路選択や受験の際の武器となるのではないか。

- ・浜松市補正予算の新聞記事の内容から、西鹿島からバスに乗って登校する生徒がいるのではないか。浜松市との話し合いのときに、「バス」の活用について意見が出たことを伝えてほしい。現実味があるのではないか。

（事務局）検討する余地はある。

イ R7年度 地域総合類型 2年生「地域学」3年生「地域実践」の取組

〔事務局説明〕 2年生「地域学」3年生「地域実践」の取組について

《委員質問・意見》

- ・地元発電企業との協力とは具体的にどういうことか。

（事務局）地域企業との共生を目指す。すでに話が進んでおり、新しい探究学習の一環として協同し、地域の魅力を発信する動画作成や冊子の作成などを打診している。

- ・企業とのコラボの例などは、他校でも実績があるのか。

（校長）食品開発など、盛んな分野はある。

（事務局）授業を通じて、地域産業への生徒の興味につながるのも期待したい。地元の他企業の協力も得たい。

- ・企業との関わりが、社会経験、インターン経験になり学校の特色になる。良い発信になる。

- ・佐久間分校 Instagram は明るく特色がある。注目されると思うのでうまく発信するとよい。
(校長) 高校で地域を盛り上げて、卒業後に地域に戻り地域を活性化してほしいと願う。

意見交換 その他

- ・スポレクは楽しそうで良かった。地域との運動会等でも提案したら楽しそう。
- ・今日の交流会の様子を、中学校の保護者に見せたら地元の中学生が分校を見直すきっかけになるのではないか。
- ・ボッチャは、体格差が関係なく良い雰囲気だった。保護者を交えた企画にしてもよい。
- ・中学校時代から比べると見違えるほど元気になった生徒を見た。これは分校の特色。今後も PR していきたい。

【閉会】